ふるさと宿南

★　第１２８号　★
発行　令和　４　年　３　月
宿南地区自治協議会
TEL・fax:662-3400
Email：kyosyukunami@maia.eonet.ne.jp

青谿書院のモミの木　里帰り植樹

お帰りなさい

弘化４年（1847）青谿書院開塾の年、池田草庵先生が冬になっても落葉せず一段と緑のさえる木々を愛したことから、門人達はマツ・モミ・カシの３本を前庭に植えました。そして、モミの木だけが残り樹高 27ｍ、幹周り 3.4mになり青谿書院のシンボルとなっていました。平成２８年、青谿書院保存会（現在は解散、養父市が継承）がモミの木の衰退を心配し、樹木医による樹勢回復の施術を行いましたが、樹齢１７１年のモミの木は回復せず、後継樹苗木の育成を提案され森林総合研究所林木育種センター関西育種場（岡山県勝央町）に枝の採取と接ぎ木育成を依頼することになり、平成３０年２月、モミの枝１２本を採取しました。その後、モミの木は倒木の危険回避のため、平成３０年１０月９日、惜しまれつつ伐採されました。

それから３年が経過、立派に育った接ぎ木苗が里帰りし、令和４年３月３日(木)、宿南小学校５･６年生１２名が参加して厳かに植樹式が挙行されました。今日から再び青谿書院で成長を始めます。

式典後 ワイヤーメッシュで獣害対策をしました

身近で見られる植物　⑩

フキ（蕗）＜キク科＞

２月まで大変な雪でしたが、日当たりの良いところでは、ようやく雪も溶けて地面が見えるようになりました。そんな道端や庭先の地面からフキノトウが頭を出してきているところです。

フキノトウはフキの花芽です。春の山菜として天ぷらにしたりフキノトウみそにしたりして少しほろ苦い春の味覚を楽しんでみませんか。

（写真は昨年３月のものです）

懐かしの“ふるさと宿南”から

～ 平成２４年３月発行 第１１号より～

今から１０年前、第９分団に新型車両と可搬式ポンプが配備され現在も稼動中です。この１０年間に宿南地区では、３件火災が発生しました。春の火災予防運動は終わりましたが 引き続き火の元の安全に注意しましょう。

お知らせ

３月２５日（金）および２９日（火）１０時～
春休みこども青谿書院塾
宿南ふれあい倶楽部ホール

草庵先生紹介

日記　３７

草庵は墓で父母と出会い、お礼を言い、自分のことを報告していた。

宮崎和夫さん作

池田草庵は先祖を敬い、亡き人たちを大事にする気もちが強かったことが日記からもうかがえる。父母や祖父母の命日、それに自分の誕生日などには、父母や先祖の墓参りを欠かさなかった。また、青谿書院を開いてからは、毎月の１日と１５日には決まって墓参りをしていた。

「早起。結髪。丘の墓に上がる。片山（実家）に行く。しばらくしてから、帰りには池口家（親戚）に寄ってから帰院」（文久元〈１８６１〉年４月１日）

「早起。座。食後、丘の墓に上る。片山に行き帰り池口に寄ってから帰院」（同年５月１５日）

毎月の１日と１５日にはこんな記述が多い。これらの日は、青谿書院を休講としている日でもあった。同時に草庵は読書したり、手紙を書いたり、来客と会ったりする日でもあるが、特別の事がない限り墓参りには必ず出かけている。年を重ねて体が弱ってきたときは杖をついて上がったり、妻や息子に代わりに行ってもらったりもした。その墓は、実家のすぐ近くの丘の上にある。青谿書院からは、歩いて２０分ほどで行ける。墓のすぐ下が片山という字名で、そこに実家があった。現在はその付近に草庵の生誕地であることを記念する石碑が立つ。墓参りの前か後には、必ずといっていいほど実家に立ち寄り、帰りは途中にある親戚の池口家にもあいさつして書院に戻る。これが草庵の墓参りのコースであった。

草庵が京都の山中で修行していた２４歳の誕生日に「生日記」という文章を書いている。「生日記」というのは誕生日に記す、という意味だろう。その中に、次のようなことを書いている。「私の父母は不幸にして早く亡くなった。親子相楽しんでいるような場面に会うと、私の心は乱れていた。ああ、私は亡き父母が恋しい。私は自分の志すところの事を成し遂げ、亡き両親に報告するのだ」

草庵は亡くなる直前までこの気持ちを持ち続けていた。草庵は墓に参るたびに父母と出会い、自分のことを報告していたのだ。

池田草庵先生に学ぶ会